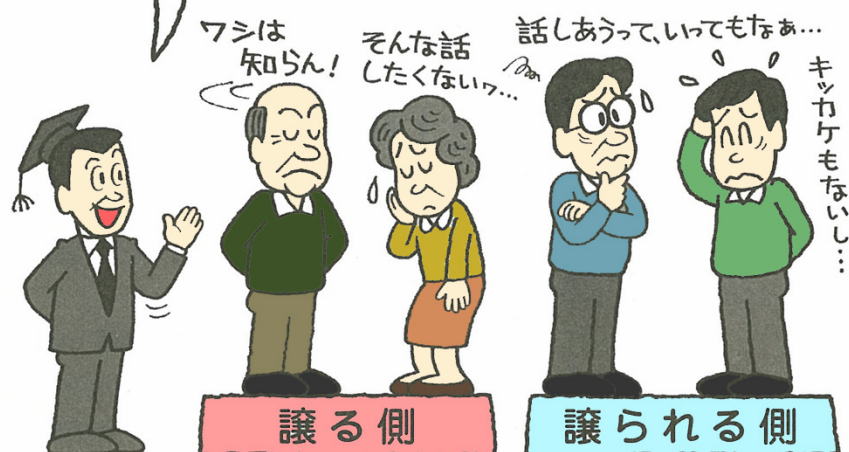


初めの一步は「勇気」と「気づき」が必要です

面倒くさいとか、照れくさいとかで、
相続問題から逃げないで!



相続の話をするには、
勇気が必要です。

相続というと、「自分が死んだら」という話になるので嫌がる方が多いようですが、ご自身や子供たちが幸せに一家を維持していくために、とても大切な問題です。

照れなくて、面倒がらなくて、逃げなくて、ご自身の相続についてご家族で話し合ってみてください。

その際、「今日、自分が死んだら、相続税がかかるのかどうか。もし、相続税がかかるのであれば、いったいいくらぐらいになるのか」を試算しておく、話がより具体的にすすみます。

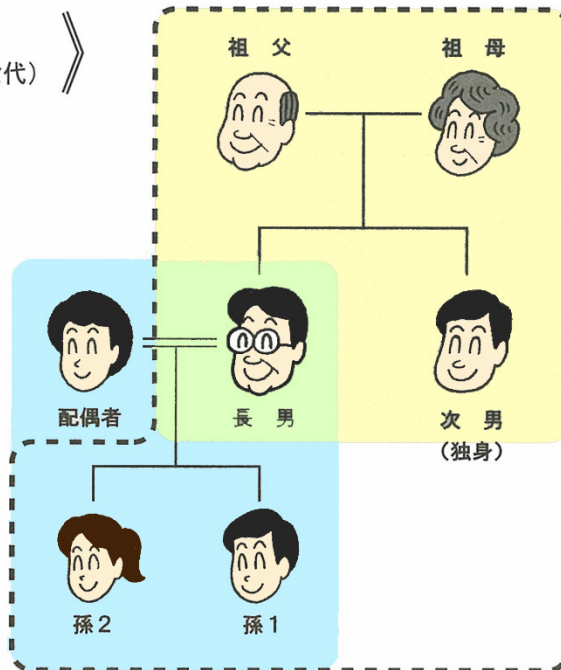
「試算」は厳密なものである必要はありません。例えば、奥さんとお子さん2人の4人家族で、土地が約3億円に建物が5000万円、それに現預金が5000万円で合計4億円くらいあるけれど、今、死んだら相続税はいくらかな？ というレベルの大雑把な税額試算でいいのです。正確な額はプロが計算してくれます。

くれぐれも、嫌な話だからといって、「来年、孫が中学に入ったら」とか「子供が結婚してから」とか、ご家族との話し合いを先送りしないようにしてください。究極の言い逃れは「来年の誕生日が来たら考える」ですが、これは絶対だめですよ。なぜなら、誕生日が来なかったときのことを話し合うのですから。

《 本書の主人公になる 家族をご紹介します。(三世代) 》

おじいちゃんとおばあちゃん、長男夫婦と子供が2人、それに独身の次男という家族構成です。

本書では、話を分かりやすくするため、「本人」を中心に、その配偶者並びに子供2人が相続人となるように解説しています。主役（被相続人）がおじいちゃんでも相続人は3人ですし、長男が主役でも相続人は3人です。お孫ちゃんまでの話はおじいちゃんを中心に作られ、お孫ちゃんまで話が及ばないときは、長男が主役になってもいいように、親子三代の家族関係にしてあります。



**譲る側が言い出してあげるのが、
一家の幸せへの第一歩！**

